

ホクコーガスタード®微粒剤

■種類名：ダゾメット粉粒剤
 ■有効成分：ダゾメット-----96.5%
 ■PRTR法指定物質：ダゾメット [第1種] -----96.5%

■登録番号：第23480号
 ■毒性：医薬用外劇物
 ■登録初年：2014.05.28
 ■性状：類白色微粒
 ■有効年限：5年
 ■包装：5kg×4袋、10kg×2袋、
 20kg×1袋

【特長】

- 土壌病害、センチュウおよび雑草種子（発芽阻害）にも効果のある総合土壌消毒剤。
- 刺激臭が少なく、微粒剤のため処理も簡単である。特別な機械を使用しないでも処理可能。
- 袋から直接散布できる「そのまま散布袋」を採用(5kg、10kg)。
- 適用作物も野菜、畑作物、果樹、花など極めて幅広い。

【適用内容】 (2015年8月5日現在)

作物名	適用病害虫名 及び 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数	
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 株腐病、萎黄病 パーテイリウム萎凋病 根こぶ病、ネグサレセンチュウ 一年生雑草	20~30kg /10a	は種又は 定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	1回	
はくさい	根こぶ病、ネグサレセンチュウ 尻腐病、根くびれ病 黄化病、一年生雑草						
だいこん	ネグサレセンチュウ	10~20kg /10a	は種21日前 まで				
かぶ	パーテイリウム黒点病 根こぶ病、萎黄病 一年生雑草	20~30kg /10a	は種又は 定植21日前 まで				
こまつな	萎黄病、根こぶ病 一年生雑草		は種10日前 まで				
しろな	根こぶ病 一年生雑草	30kg/10a	は種21日前 まで				
ブロッコリー カリフラワー			は種又は 定植21日前 まで				
つぼみな			20kg/10a				は種又は 定植21日前 まで
チンゲンサイ			は種又は 定植21日前 まで				
ひろしまな	立枯病(ピシウム菌) 根こぶ病、一年生雑草	30kg/10a	は種又は 定植14日前 まで				
みぶな みずな			は種12日前 まで				
はつかだいこん	一年生雑草	20kg/10a	は種35日前 まで				
きゅうり	苗立枯病 (ピシウム菌) (リゾクトニア菌)	200~400 g/m ³	は種又は 定植21日前 まで	土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
	つる割病、半身萎凋病 一年生雑草	20~30kg /10a		本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
かぼちゃ	苗立枯病 (リゾクトニア菌) フザリウム立枯病 一年生雑草		20~30kg /10a				

作物名	適用病害虫名 及び 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数		
メロン	黒点根腐病、つる割病 半身萎凋病、黒変根腐症 一年生雑草	20~30kg /10a	は種又は 定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	1回		
	紅色根腐病	30kg/10a			土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
すいか	苗立枯病 (リゾグロニウム)	200~400 g/m ³			本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
	つる割病、一年生雑草	20~30 kg/10a			土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
にがうり	つる割病、ネコブセンチュウ 一年生雑草				200~300g /m ³		は種又は 定植21日前 まで	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。
	苗立枯病(リゾグロニウム)	20~30kg /10a						
トマト ミニトマト	萎凋病、褐色根腐病 根腐萎凋病、半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	30~60kg /10a			植付21日前 まで		1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。
	紅色根腐病	30kg/10a						
	青枯病	30kg/10a						
なす	苗立枯病(リゾグロニウム) 半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg /10a			定植21日前 まで		1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。
	そうか病、粉状そうか病 黒あざ病、萎凋病 一年生雑草							
とうがらし類	萎凋病、疫病、青枯病 苗立枯病(リゾグロニウム) 一年生雑草	30kg/10a	定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
ねぎ	黒腐菌核病	30~60kg/10a	は種又は 定植14日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
	紅色根腐病 ネギハモグリバエ	30kg/10a						
	白絹病、萎凋病 根腐萎凋病、小菌核腐敗病 ネコブセンチュウ 苗立枯病(リゾグロニウム) 一年生雑草	20~30kg /10a						
わけぎ	苗立枯病(リゾグロニウム) 一年生雑草							
たまねぎ	黒腐菌核病	30~60kg /10a	は種又は 定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
	紅色根腐病	30kg/10a						
	乾腐病、一年生雑草 ネコブセンチュウ	20~30kg /10a						
	苗立枯病	20~40kg /10a						
	黒穂病、一年生雑草	20~30kg /10a	秋期 (翌春は種)					
葉たまねぎ (苗床)	一年生雑草	10~20kg /10a	は種14日前 まで					
にんにく	イモグサレセンチュウ 紅色根腐病、一年生雑草	30kg/10a	植付28日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
らっきょう	根腐病、乾腐病 ネコブセンチュウ 一年生雑草		植付21日前 まで					
にら	乾腐病、紅色根腐病 一年生雑草		は種又は 定植21日前 まで					

作物名	適用病害虫名 及び 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数
にんじん	萎凋病、根腐病 しみ腐病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～30kg /10a	は種又は 定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	1回
パセリ	疫病、萎凋病 苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草	30kg/10a				
セルリー	萎黄病、一年生雑草					
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前 まで			
ごぼう 葉ごぼう	萎凋病、黒あざ病 一年生雑草	20～30kg /10a	は種28日前 まで			
もりあざみ	黒あざ病、半身萎凋病 一年生雑草	30kg/10a	は種21日前 まで			
レタス	ネグサレセンチュウ		は種又は 定植14日前 まで			
非結球レタス	すそ枯病、一年生雑草 根腐病	20～30kg /10a				
食用ぎく	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く) 萎凋病、半身萎凋病 一年生雑草		30kg/10a			
	青枯病					
ふき	半身萎凋病 一年生雑草	30kg/10a				
みつば	立枯病	20kg/10a				
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、実えん どう、さやえんどう、 さやいんげん を除く)	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 茎腐病 一年生雑草	30kg/10a	は種21日前 まで			
さやいんげん	苗立枯病(リゾクトニア菌) 葉腐病、一年生雑草	20～30kg /10a	は種又は 定植21日前 まで			
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	30kg/10a				
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病、一年生雑草					
かんしょ	ネコブセンチュウ 紫紋羽病、つる割病 一年生雑草	20～30kg /10a	植付21日前 まで			
こんにやく	根腐病、白絹病 乾腐病、一年生雑草					
さといも さといも(葉柄)	乾腐病、ネコブセンチュウ 一年生雑草					
しょうが	根茎腐敗病	30～60kg /10a	定植21日前 まで			
葉しょうが	一年生雑草	20～30kg /10a				
	みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	30kg/10a	定植42日前 まで		
いちご	萎黄病、萎凋病、炭疽病 芽枯病、一年生雑草	20～30kg /10a	仮植又は 定植21日前 まで			
	青枯病、疫病	30kg/10a				
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ		は種21日前 まで			
	立枯病、萎凋病 株腐病、根腐病 一年生雑草	20～30kg /10a	は種10日前 まで (地温20℃ 以上)			

作物名	適用病害虫名 及び 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数	
てんさい	叢根病、苗立枯病	200～ 400g/m ³	秋期 (翌春は種)	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	1回	
やまのいも	根腐病、褐色腐敗病 一年生雑草	20～30kg /10a	植付21日前 まで				
つるむらさき	ネコブセンチュウ		定植21日前 まで				
あしたば	苗立枯病(リゾクトニア菌)	30kg/10a	は種10日前 まで				
しそ	青枯病、一年生雑草		は種14日前 まで				
モロヘイヤ	ネコブセンチュウ		定植30日前 まで				
チャービル	一年生雑草	20kg/10a	は種42日前 まで				
たばこ	角斑病、野火病 センチュウ類	10～20kg /10a	秋期 (翌春植付)				本剤の所定量を畦面に散布して 土壌と十分混和する。
	疫病、センチュウ類	5～10kg /10a	春期 (植付前)				
	立枯病、黒根病、疫病 一年生雑草	20～30kg /10a	秋期 (翌春植付)				
樹木類(苗木)	植付前						
花き類・観葉植物	苗立枯病(リゾクトニア菌) 株腐病、球根腐敗病 首腐病、半身萎凋病 萎凋病、萎黄病、白絹病 立枯病、根頭がんしゅ病 ネコブセンチュウ	20～30kg /10a	は種又は 植付前				
	一年生雑草	20～60kg /10a					
	青枯病	30kg/10a					
せんりょう つつじ類	立枯病、一年生雑草 センチュウ類、一年生雑草	20～30kg /10a	は種又は 植付前				
カーネーション	萎凋細菌病						
きく	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く)						
ストック	苗腐病 萎凋病						
ぼたん、しゃくやく	根黒斑病	30～40kg /10a	植付前				
スターチス	萎凋細菌病	20～30kg /10a	は種又は 植付前				
グロリオサ	紅色根腐病						
スイトピー	腰折病						
さくらそう	軟腐病						
トルコギキョウ パンジー	根腐病						
アイスランドポピー	萎縮病						
りんご	紫紋羽病 白紋羽病	50～100g /m ²	夏期～秋期	被害株跡地に本剤の所定量を均 一に散布して土壌と十分混和す る。			
桑		1株当り (4m ²)400 ～600g					
なし ぶどう		100g/m ² 50～100g/m ²					
芝	一年生雑草	目土用土 1m ³ 当り 100～200g	雑草発生前	土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
		30kg/10a	は種又は定 植21日前 まで	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤を処理する前に耕起整地すること。
- 本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意すること。
 - ◆ 地温が10℃以下のときには使用しないこと。
 - ◆ 砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆すること。
 - ◆ 次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長すること。
 - ① 重粘土質の土壌の場合
 - ② 降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ③ 地温が低い（15℃以下）場合
- センチュウが多発する条件、或いはトマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用すること。
- ガス抜きが不十分であると薬害を生ずるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施すること。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行うこと。
- 本剤を全面に処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和すること。特に、やまのいもに使用する場合は、深さ50～60cmに土壌と十分に混和すること。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防ぐこと。7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- 本剤を苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- 本剤が作物に直接ふれると薬害を生ずるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理すること。
- 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。
- りんご、桑、なし及びびぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ25～40cm(りんごの場合は深さ40cm)に土壌と均一に混和すること。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けること。また、りんご、なし及びびぶどうでは、植え付けた年は果実を収穫しないこと。
- ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生ずるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種すること。
- しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意すること。
- は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用すること。
- 芝の目土に処理する場合は、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるため除草剤として、芝生に直接散布することのないように注意すること。
- 葉たまねぎ(苗床)及びたまねぎのは種14日前までに使用する場合は、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く(2～3cm)混和し、ビニール等で被覆する。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行うこと。
- たまねぎに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- てんさいに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- たばこに使用する場合は、次のことに注意すること。
 - ◆ 秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和する。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けること。
 - ◆ 春期使用する場合は、本剤を散布後、十分混和する。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆する。さらに2週間後に植え付けること。
- だいこんの「つまみ菜」及び「まびき菜」には使用しないこと。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いは十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 本剤の処理の際は吸収缶付き(活性炭入り)防護マスク、不浸透性手袋、長靴・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用すること。ガス抜き作業の際及びガス抜き作業前に施設内に立ち入る場合にも同様の防護マスクを着用すること。また薬剤が皮膚に付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。

- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等を十分配慮すること。
- ❖ 作業中及びくん蒸中の圃場等へ小児等作業に関係のないものや、家畜、家禽が立ち入らないように十分注意すること。
- ❖ 住宅地付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮し、特に住宅に隣接する圃場では使用しないこと。
- ❖ 水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、種子、苗、肥料および他の農薬などと隔離し、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。